

## ＜財団法人彫刻の森美術館設立趣意書＞

戦後世界の現代芸術は、今世紀前半の巨匠たちの創造的な実験の上に立って、新しい社会的な機能を果そうとしているようである。何時の時代でも美術は、その社会、国家の想像力の高さを表現し、この美術という映像文化を通じて人間間の、国家間の、新しいコミュニケーションの役割を果してきたことは申すまでもないが、現代ほど美術ばかりでなく、すべての人が新しいコミュニケーションの手段に直面し、その造形的な表現を期待している時代はないと思う。

幸い戦後の日本の現代美術は、多くの美術家の努力によって、世界の造形映像文化のために寄与する状況を迎えている。絵画については、日本では社会の関心を集めているが、彫刻については、これまでの日本の彫刻に対する考え方の影響もあって一般的に冷たく扱われているのではないかと思う。これは、これまでの木造建築の伝統から充分考えられる。

しかし、戦後の日本の現代彫刻は、これらの制約から解放され、また現代の新しい生活空間は彫刻の協力を求めており、彫刻の新しい社会的役割をようやく認めている。

財団法人彫刻の森美術館は、この事実に対して日本ではじめての現代彫刻のための野外美術館を建設し、国際間の交流を活発に行い、日本および世界の現代彫刻を箱根の雄大な大自然の中で展示し、野外の風致と彫刻の造形美を調和させ、一般庶民が気軽に彫刻芸術に接する機会を与え、わが国の彫刻芸術の向上発展をはかる。

特に、優秀な彫刻家の援助ならびに表彰、および新人の育成、展覧会、講演会、映画会、研究会等を随時催すとともに彫刻関係図書の発行、頒布などを実施し、彫刻芸術活動の促進に寄与しようとするものである。(昭和 43 年 8 月)